

教室「安全基地化」計画

～夏季研修を受けて～

夏季研修で、大阪府教育センター支援教育推進室より「子どもを健やかに育むことは～教室マルトリートメントを防ぐために～」を受講しました。講座にあった3点のポイントを整理してみましたのでご一読ください！

(1) マルトリートメントとは？

教室マルトリートメントとは学校の教室の中で行われるこれらのことです。(川上康剛先生)

「マル(mal=悪い)トリートメント(treatment=扱い)」：不適切な療育、避けたい関わり方

- ・何回言ったら分かるの？
- ・ダメって言ったよね？!
- ・1年生からやり直し
- ・早くしないと〇〇させないよ
- ・勝手にすれば



虐待とまでは言わないけど・・・
そんなつもりで言ったわけじゃないけど・・・

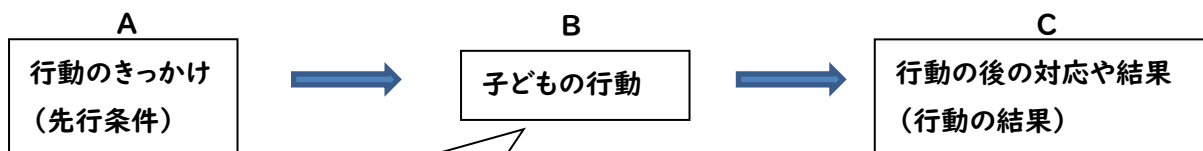
大人の発する言葉と子どもが受け止める言葉は違います！
それは関係性や頻度、本人の背景によっても変化します

〇不適切な療育を受けた子どもは・・・

- ・大人の顔色をうかがう
- ・相手(大人)にとっての正解を考える
- ・マイナス点の告発(〇〇さん～してたよ)
- ・ネガティブな報告(まだ～できてないやん!)

→大人が伝えたことを分かって、行動が変わったわけではない! 伝えたつもりで、伝わってないのかもしれない。

(2) 子ども理解の「守備範囲」を広げるために(応用行動分析)



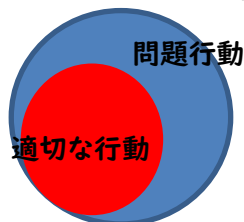
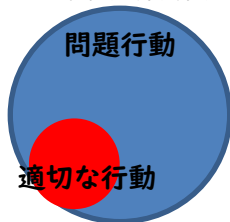
- ・物や活動の要求
- ・注目要求
- ・回避・逃避要求
- ・感覚要求

行動には必ず理由があります
4つの機能どれに分類されるか考えてみましょう!(アセスメント)

(3) 行動を変化させるために PBS のかわり考えてみましょう!

PBS(=ポジティブ行動支援)は子どもの行動をポジティブに(罰則ではない肯定的、教育的、予防的な方法で)支援するための枠組みのこと。個人だけでなく、取り巻く環境もアプローチの対象ととらえる。

※徳島県教育委員会のウェブサイトには PBS の実践事例集があります!



「ないものねだり」ではなく「あるものさがし」

問題行動をなくす!取り除く!では本人も指導者もしんどいです。
本人の持てる力を伸ばしながら、余白を埋めていきましょう。

応用行動分析や PBS を用いて、教室が安全基地になるようにチームで支援していきましょう!